

食品廃棄物発生とリサイクル実績

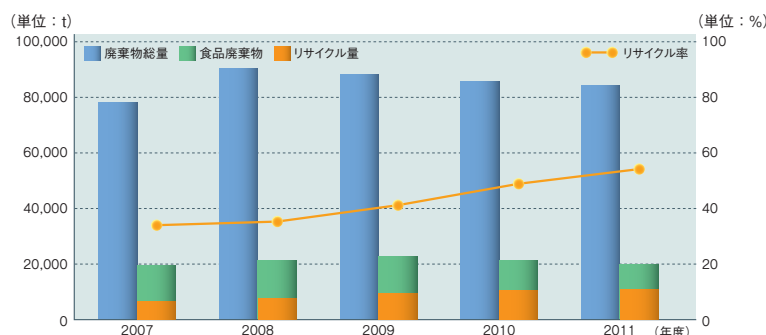
ユニーでは全店舗で廃棄物の分別計量を行うことで、廃棄物の総排出量は毎年削減できています。食品廃棄物についても、商品の廃棄ロス削減に取り組み、毎年削減しています。また、食品リサイクルループの構築を店舗所在地でそれぞれ進めており、2011年には16県下12ループが完成、リサイクル量も年々増加し、リサイクル率も向上しています。

エコ・ファーストの約束では店舗営業所所在地全てでリサイクルループを構築するとしています。現在、食品リサイクルループを構築できていない県下においては、再生利用事業者・農業生産者とのパートナーシップにより農畜産物を店舗で販売する取り組みを進め、2013年3月末までに食品リサイクルループの構築を目指しています（福島県を除く）。

食品リサイクルの推移

年度	廃棄物総量 (t)	食品廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
2007	78,013	19,605	6,656	34.0
2008	90,560	21,436	7,561	35.3
2009	88,412	22,908	9,444	41.2
2010	85,735	21,210	10,378	48.9
2011	84,332	19,944	10,812	54.2

※2008年にユーストアと合併したため、排出量が増加した



リサイクルループを構成するパートナーシップ

私達がそれぞれの役割を果たすことによって、リサイクルの環が完成します。食品をムダにせずに、ゴミも減らすことができる、地球にやさしいライフスタイルです。「安全安心で新鮮、そしておいしい」、作った人の顔が見える農産物をお客様にお届けすることが、ユニーの役目と考えています。



食品関連事業者

食品循環資源を排出する店舗

- 調理クズ・魚アラ・売れ残り・残飯などから異物を排除し分別、計量する
 - 分別マニュアルの作成
 - 従業員・テナントへの教育の徹底
- 食品循環資源の品質を確保するために、適正に保管する
 - 廃棄物庫の整備（清掃・冷蔵施設）
 - 保管容器の整備（分別容器・洗浄）

再生利用事業者

- 品質の高い再生製品（堆肥・飼料）を製造する
 - 原料である食品循環資源・製造方法・施設・保管の基準作成と監視
- 農業生産者のニーズにあった再生製品を製造する
 - 再生製品の販売先を確保し、農業生産者とパートナーシップを図る

農業生産者

リサイクル農産物を消費者に提供する

- トレーサビリティの確立（生産者の顔が見える農産物）
 - 農業生産者の生産技術と適正な再生製品（堆肥・飼料）によって、安全安心な農産物を提供してもらう

リサイクルループを構築するために

店舗の所在地で「地域循環型食品リサイクルループ」を構築し、地域の再生利用事業者や農業生産者とパートナーシップを図っていくことがユニーの方針です。パートナーを探すために、紹介者（もしくはコーディネーター）が必要になります。パートナーシップで最も重要な要素は、お互いの食品リサイクルに対するポリシーが合っていることです。



エコ野菜売場

環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生利用事業者の製造する堆肥や飼料が、農業生産者の利用に適した品質かどうかを確認する。

再生製品（堆肥や飼料）を利用する農業者を探す

地産地消を前提に、生産技術の高い農業者に主旨を理解してもらい、パートナーになってもらう。

仕入担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

販売計画を立てる前に、農作物の栽培履歴や品質が販売基準に達しているかどうかを確認する。

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る

販売計画に基づいて生産計画を検討して、購入契約を結ぶ。

食品関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

売り場にリサイクルループの主旨説明や生産者の紹介などを掲示し、「安全安心な農作物」であることを明示する。

